文科省N-E.X.T.ハイスクール構想関係基金の活用について（高等学校等教育改革促進事業）

資料１

～宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整えていく～

- R7年度に策定した**「みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040」を早期に実現**していくため、文科省の財源を活用し、下記４つの取組を展開。
- 文科省からは「改革先導校４校（３類型各１校＋α）」と限定されているが、**県内全県立高校を「協力校」「関係校」と位置付け、広く効果を波及**させていく。

全ての県立高校（オンライン教育センター）　学びの量的・質的充実

1 全県立高校のレベルアップに向けた、オンラインをフル活用した教育空間の拡張（オンライン教育センターの設置）　9億円

- 小規模校への多様な科目（座学→実技系）配信。
- 習熟度別授業への対応のため学習コンテンツを蓄積し、オンデマンドで展開。
- 全県立高校をネットワーク化した上で、デジタルとリアルの効果的な組み合わせにより、探究活動の相互発表や交流を進め、学びを深めることで、県内のどこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整備。
- 拠点となるオンライン教育センターを仙台第二高校敷地内に設置。大学や企業と連携し、創造性・多様化を取り入れていく。





■主な整備内容
【県内各校】電子黒板、受信設備
【オンライン教育センター（各校共有）】
配信用カメラ、PC、マイク・スピーカー、VR・AR機器、モーションキャプチャ、ICT計測器、3Dプリンタ、3Dスキャナ等





4圏域【白石・古川・石巻・気仙沼】進学系拠点校＋中部地区進学系高校　進学力向上

2 全県下の進学力向上に向けた、4圏域拠点校と中部地区進学系高校との県立高校連合　11.5億円

- 県内どこに住んでいても、希望する進路実現ができるよう、白石高、古川高、石巻高、気仙沼高の生徒が、仙台第一高、仙台第二高、仙台第三高、宮城第一高、仙台二華高の各校の特色・強みのある授業を受けることができる環境を整備。
- 4拠点校からも発信し、9校で文理横断・融合科目の課外講習、合同学習等の取組を展開。
- 仙台第一高の旧通信制課程教室等を活用し、対象9校の生徒、教員が参集できるラボスペースを設置。
- 進学力向上のため授業を支える予習・復習コンテンツを開発。



■主な整備内容
・データサイエンスフロア用機器
・オンライン会議等用映像配信機器
・文理横断・融合(STEAM)探究学習用データ分析・試作等機器
・つまずきを解消するためのオンライン学習環境の整備



県工業高校　専門学科の実践的な学び

3 県内企業で活躍する人材育成に向けた、県工業高校のアップデートと県内工業系高校による共同利用　30.5億円

◎採択

- 生産性向上など実際の企業活動を視野に入れた実践的な内容を取り入れ、最先端の研究開発だけでなく、生産技術、品質保証など企業活動を下支えできる人材の育成を目指す（⇒ 生産安定に寄与）。
- 実際の企業で使われるコンピュータ制御の複合型工作機械、産業用ロボット等を導入し、機械加工技術のみならず、機械制御技術も学ぶなど、学科横断で実社会につながる学びを実践。
- ネットワーク環境を強化し、県内工業系高校からの遠隔操作や企業・大学とのデータ共有も可能に。
- 校外開放スペースを設け、小・中学生をはじめとする地域に開かれたエリアに。



■主な整備内容
・５軸マシニングセンタ
・ロボットアーム
・独立データサーバー
・データ解析用ＰＣ
・VR/AR関係機材



県水産高校　専門学科の実践的な学び

4 持続可能な漁業に向けた、次世代型「陸上養殖・水産イノベーション教育拠点」の整備　11億円

◎採択

- 半閉鎖循環式陸上養殖施設を整備し、AIやIoTによるデータを活用した水温・水質管理を取り入れることで、持続可能な養殖教育を推進。
- 陸上養殖を通じ、バイオテクノロジー、ICT、水質管理、自動化制御など、先進的な技術を習得。
- 商業などの他学科と連携し、商品開発や流通・販売の視点を取り入れた学習を通じて、水産資源の６次産業化を含む実社会に直結した総合的な学びを展開。





■主な整備内容
・半閉鎖循環式陸上養殖施設
・水中ドローン
・IoTセンサー

